

空の神兵の ルーツを訪ねて

長瀬 彰孝 陸自69

はじめに

海上自衛隊は「旧海軍の伝統を引き継ぐ海上自衛隊」と堂々と呼称しますが、陸上自衛隊は残念ながら「旧陸軍と自衛隊は違います」と言います。その中であって、第1空挺団は「旧落下傘部隊の伝統を引き継ぐ第1空挺団」と胸を張って語る唯一の部隊です。特攻精神にも通ずる「挺進赴難」の空挺魂こそ旧軍から引き継ぐ伝統でもあります。毎年11月23日（新嘗祭）に行われる宮崎県川南護国神社秋季大祭への参加に合わせ空の神兵のルーツを訪ねました。

1 落下傘部隊訓練地の経緯

陸軍落下傘部隊は昭和15年浜松で誕生、その後満州白城子に移転しました。しかし寒さで訓練期間が限られることから、昭和16年に軍馬補充部の牧場であった宮崎県川南が、降下場に転用され訓練が始まりました。昭和17年には兵舎が建設され、

数千の兵が訓練に励みました。天下る落下傘兵は、宮崎が天孫降臨の地であることから空の神兵と称され、村民の庇護のもと精強部隊に錬成されました。

2 八勇士殉職の碑

落下傘降下に危険は付きまといます。公表された降下での殉職事故は3件ですが、他の事故も含め多くの隊員が亡くなったようです。

その一つが昭和18年6月小丸川水難事故です。隣町の高鍋で新任将校教育として渡河訓練中に、増水した水流に流され8名の隊員が亡くなりました。大事故にも関わらず隊員の死は伏せられ、川辺に碑が建立されました。昭和40年護岸工事の際、小高い丘の小丸川を見下ろす場所に移動し、「忠烈 八勇士殉職の碑」が設置されています。

小丸川渡河訓練を計画した榊原中尉は責任をとって自決を試みましたが、聯隊長に諭されて思いとどまりました。翌年の昭和19年、聯隊がレイテに降下する際、地上部隊との連携が見込めないタクロバン降下部隊指揮官を志願し8名の位牌を抱いて搭乗しましたが、その後の消息は不

明です。米軍資料では全13機が撃滅されました。殉職八柱の魂も落下傘部隊の初めての特攻作戦に参加したのです。

碑の裏側に刻まれた歌は、

「何日行くか」

何日散るかは知らねども

今日のつとめをわれは果たさん」

目達原駐屯地記念行事に参加した際、慰霊祭参加の傍ら先輩隊員が後輩に碑の説明しているのに出会い、頼もしく感じました。



八勇士殉職の碑

3 発進飛行場

落下傘部隊が降下のため搭乗し発進した飛行場が、現在の宮崎空港と航空自衛隊がある新田原基地です。宮崎空港は海軍航空部隊が使用し、赤江飛行場として使用していました。地理的にも近いので、時々発進飛行場として使用されていたようです。落下傘部隊の痕跡はありませんが、特攻機発進の飛行場として空港

の端に碑が建てられています。



海軍赤江飛行場の慰霊碑

また、新田原基地の忠魂碑の横に、立派な空挺歌碑が建てられています。基地隊員の手で継続的に清掃が行われ整備が行き届いていました。この碑を目的に訪れる人は少ないと広報担当者から聞きました。



新田原基地の空挺歌碑

4 護国神社秋季大祭

11月23日は川南護国神社の秋季大祭です。前日から護国神社奉賛会の方々が主体となり町の人々も協力して祭事の準備をしていました。夜には前夜祭が開催され、空挺同志会宮崎支部の主催で懇親会も開かれ、地元の方々と全国から集まった人との

交流の場に約70名が参加しました。二次会への参加者も多く懇親を深めることができました。

大祭当日は快晴に恵まれ約150人の参加がありました。

(1) 護国神社設立経緯

陸軍挺進部隊の敷地内に全戦死者をお祀りする「挺進神社」がありましたが、終戦後の昭和21年春、駐留軍により焼き払われてしまいました。

その後川南町出身の戦死者を祀る霊堂を建立しようと町民の運動があり、同町出身634柱と挺進部隊約1万2000名の英霊を合祀することとなりました。昭和24年、川南霊堂（後の護国神社）が再建され、当初は川南町が主催、空挺同志会が共催で毎年この日に慰霊祭が行われることとなりました。現在は、奉賛会が主催者になっていますが、社会福祉協議会、赤十字社の方々等町を挙げての祭事に変わりはありません。

(2) 祭典

式次第（主要事項）は、
国旗掲揚

英霊に対し黙祷
神事

修祓
開扉

献せん

斎主祝詞奏上

豊栄の舞

祭詞奏上

慰霊の詞（県知事）

玉串奏奠

撤せん

奉賛会長挨拶

川南町長挨拶 です。



挺身部隊油絵展示



陸上自衛隊参加者

祭典では、国旗掲揚を陸上自衛隊都城駐屯地の隊員が支援しています。挺進各部隊の活躍を描いた油絵17点と地元英霊を回想する油絵が境内に展示され、説明書きも添えられています。

ます。また小学校女兒による神樂が奉納されます。



小学生女兒の神樂奉納

昔は町を挙げてのお祭り、屋台も出店し、祭礼後は境内で各種武道大会が行われ、町の一大イベントと聞きました。



護国神社例大祭参加者

護国神社の境内の裏側に空挺落下傘部隊発祥之地と記した碑が建てられており、神社境内同様きれいに整備されていました。



空挺落下傘部隊
発祥地碑

碑の下には歌碑があります。「花負いて 空射ち征かん 雲染めん 屍悔いなく 兵等散るなり」

5 その他当時の空挺施設

町の北西、国立病院機構宮崎病院の端に挺進三聯隊が使用したと伝えられる給水塔があり、そこには米軍の機銃跡が残っています。



挺身 3 聯隊給水塔

おわりに

今回は落下傘部隊を主にまとめました。宮崎県護国神社には「ああ特攻」の像も設置され毎年法要が継続されています。

また平和台公園には昭和15年に建

立された巨大な「八紘一宇」の文字が刻まれた平和の塔が残っています。戦後、米軍に対して地元の人が「八紘一宇」の文字を隠し通したと聞きました。



「八紘一宇」平和の塔

宮崎神宮は護国神社の近くにあり、ここでも戦績を感じる展示がありました。足を延ばせば鶴戸神宮等、日本のルーツを探る場所が至る所であり、宮崎県が神話の国と称される所以を実感しました。

また川南町が、引揚者や挺進団の生き残りの人たちの大変な苦労の末、荒れ地が広大な農地に生まれ変わり、川南茶等特産物も産出、その傍ら先人の慰霊にも熱心なことに敬意を表したいと思いました。



護国神社の特攻像